

<目的> 老人ホームの入居者の生きがい観や情動の活性化、衣生活のあり方、おしゃれ行動などについて、施設へのアンケート調査の結果について第49回、第52回大会において報告した。今回、再び「衣生活とおしゃれ行動に関するアンケート調査」を実施し、これまでの調査結果も加味しながら、老人ホームの衣生活と情動の活性化について考察した。

<方法> これまでの調査方法と同様に入居者の介護の程度により、①特別養護老人ホーム②養護老人ホーム、③軽費老人ホームの3グループに分けて、2000年10月中旬に郵送法によるアンケート調査を実施した。調査対象は各グループ100施設であり、調査票の回収率は、特別養護68%、養護83%、軽費86%である。調査内容は、①生きがいを与えるための催し、②施設の環境づくりへの配慮、③施設内での衣生活（衣服着用の規則、日常着と寝衣の区別、着替え、衣服の入手と廃棄など）、④入居者用衣服に必要な条件、⑤おしゃれ意識と行動（おしゃれへの関心、関心の男女差・年齢差、おしゃれに対するアドバイスの内容・効果、おしゃれをさせる時、頻度、必要性）などである。

<結果> 興味のあるいくつかの点について述べる。衣生活については、衣服着用の規則を設けている施設は全体的には少なく、最も多い特別養護でも約22%であった。日常着と寝衣の区別、着替えの行動、入居者用衣服に必要な条件は、特別養護・養護・軽費の間に差がみられた。おしゃれ行動については、施設の種類に関係なくおしゃれの必要性、おしゃれによる精神的面への効果を認めていた。また、おしゃれへの関心は男性よりも女性のほうが高いが、おしゃれの関心と年齢とは関係がないとの回答が多かった。